

日本共産党さいたま市議会議員

## 松村 としお

日本共産党さいたま市議団

さいたま市浦和区常盤 6-4-4 (さいたま市議会内)  
TEL 048-829-1811 FAX 048-833-8165  
ホームページ ● <http://www.jcp-saitama.jp/>

無料生活相談

毎月第1・第3水曜日  
午後3時～5時まで

無料法律相談

毎月第3水曜日  
弁護士が法律相談にのりますブログ、ツイッター  
フェイスブックもやってます

松村としお 検索

●お問い合わせ

日本共産党緑区・松村としお事務所  
TEL 048-874-9666  
緑区三室 2713-4日本共産党さいたま市議団控室  
TEL 048-829-1811コミュニティバスの  
充実を

コミュニティバス充実が強い要望として寄せられています。ところがさいたま市は「コミュニティバス等導入ガイドライン」で運行経費の4割を運賃でまかなうこと、など高いハードルを課しています。私は議会で、市がおこなった調査で休日運行や本数増の要望が強く出ていたことをとりあげ、「休日運行や本数増にはガイドラインの見直しが必要」と質問。市は「ガイドラインの課題を把握できてきた。さまざまな要件について協議したい」と答えました。私は「コミュニティバスを市民が利用しやすい、新たに通しやすいガイドラインに見直しを」と強く求めました。

## 旅客機が緑区上空を飛ぶ

国は、2020年3月から羽田空港着陸ルートの見直しを8月に発表。南風時15～19時の時間帯、1時間に14本の旅客機が緑区も含めたさいたま市上空を飛ぶこととなります。しかし、落下物や騒音、大気汚染など不安の声を受け、党市議団として計画見直しや住民説明会などを国・市に求めてきました。

私は9月議会であらためて教室型の住民説明会や試験飛行の前倒し実施を求め、「国に要望する」と市は答弁しました。計画見直しとともに市民の声を聞くよう国にも引き続きとりくみます。

台風被害  
支援と防災対策に全力!

(右) 農家から聞き取り  
をおこなう  
(左) 冠水した見沼田ん  
ぼの農道

台風19号が大変な猛威をふるい、緑区各地で被害が出ました。被災されたみなさんにお見舞い申し上げます。

翌日(10月13日)に緑区内をまわりました。国道463号線(旧道)が冠水で終日通行止め。見沼田んぼも広範囲に冠水して農業被害が出ました。道路が冠水で通行止めになり、国道463号バイパスに車両が集中し、新見沼大橋有料道路が大渋滞しました。日本共産党埼玉県議団や伊藤岳参院議員を通して、災害時には一時的に無料にするよう求めました。

住宅地でも道路冠水で「トイレの水が逆流してあふれそうで怖かった」などの声もいただきました。今後、下水の改善や芝川第一調節池の早期完成や芝川・綾瀬川の浚渫(しゅんせつ)も求めていきます。

議会は10月18日に閉会しましたが、今回の台風被害に関する特別委員会をつくって超党派で対応することになりました。党市議団の各議員も被災者支援にとりくんでいます。私も今回の災害でいただいた要望にとりくむとともに、さいたま市全体での防災対策を前進させるためにがんばる決意です。

## みんなの声を議会に



## 高齢者の補聴器購入に補助を求める

障害者に加えて高齢者にも補聴器購入への補助制度創設の要望が寄せられています。9月には市民団体のみなさんとも懇談をおこないました。ある程度の性能を持った補聴器は片耳で15～30万円します。難聴が

認知症やうつ病に波及するという研究もあります。党市議団は補聴器購入の補助制度創設を国に求める意見書を議会に提案しましたが、他党派の賛同が得られませんでした。



## 民間学童保育 支援充実で負担軽減を

さいたま市学童保育連絡協議会が9月に行った議員・行政との懇談会に出席しました。多くの民間学童保育は保護者が大変な苦勞をしながら運営しています。「家賃補助の増額を」「指導員の処遇改善を」と切実な要望

が次々出されました。私は「処遇改善など国の補助金も使って支援するよう求めたい」と話しました。



## 選択的夫婦別姓 自分らしく生きるために

9月議会では旧姓で印鑑登録ができるよう条例改正がおこなわれました。私の質疑に市は「契約や銀行口座、就職など職場等での身分証明に資する」とメリットを説明しました。私は自分が旧姓で議員活動していることを述べ、「根本的な対策は選択的夫婦別姓でこそ」と主張しました。

## 部活動は改善が必要

教員の働き方や子どもの健康を大切にする観点から、部活動の改善が大きな議論になっています。

私はさいたま市でも部活動の基本ルールを定めるよう求め、昨年度に「部活動の在り方に関する方針」ができました。

南区の中学校では教員の不適切な指導を苦しんで生徒が自死したことも報道されています。私は9月の決算委員会で、こうした経過をふまえ、教員・生徒が生活と活動のバランスをとれるよう、上記方針について教員・生徒・保護者・地域のあいだで理解が進むようとりくむことを求めました。

少人数学級を  
さいたま市も

さいたま市では教員が病気で休む人数が増えています。教員の仕事が多すぎることは大きな原因の一つです。本市が政令市のなかで教員あたりの子どもの人数がもっとも多いことを指摘し、9割の政令市で実施する少人数学級を本市でもやるよう強く求めました。